

◇「撮るときの条件をプラスに考えられるか、生かせるか」に尽きる

ネーチュア写真の表現ということですが、とっておきの「これだ!」というものはありません。要するに「撮るときの条件をプラスに考えられるか、生かせるか」に尽きると思います。ですから、この方法を一つ覚えたから万能の特効薬になるみたいな撮影方法は無いと思います。今月8月号の「アサヒカメラ」を読んでいますか? 「今、評価される風景写真とは」というテーマがあります。別の意見もあるでしょうが、その中で佐々木広人編集長が、風景写真は「あ! こういう写真は前に見たことがあるよね」というような作品が出てくると途端に興ざめして力を失ってしまうと言われてます。

◇オリジナルな感覚で表現する

撮影地については色々有名地がありますが、その中で特別な表現がされてなければ「あ! 日光ね」、「あ! 富士山」というような評価で終わってしまいます。そこを自分のオリジナルな感覚で表現することが大事だと思います。ここに私の写真が沢山あります。これを皆さんに一枚一枚見て頂きますが、良いところがあれば参考にして頂きたいと思います。

◇どんな場所であっても、その場所で表現できる工夫をする

① この間、秋田に行きました。新しい新幹線で走ると横に高い塀がある。秋田に行くときは在来線を通ります。そうすると、新幹線と自動車が並行して走る時が結構ある。これを撮ってみました。1/30秒、1/25秒で撮るとこれは流し撮りです。新幹線が流してくれる。それを撮ったのがこれです。これは手前にブッシュがあっても細い木は全部溶けてしまって写りません。後ろの車が止まって写ります。ですから、ここでは撮りづらいという発想を変えれば、逆に表現力の付く写真が撮れる。こういうことではないかと思う訳です。

① 「秋田」



② これは横浜に行く時に電車の中で撮ったものですが、電車も並行して走る時がある。電車と一緒に走っている場合は、電車の乗客が写り、周りは全部流れる。夜でも1/25秒位のシャッタースピードに感度と絞りとで調整すれば、同じような条件で撮れます。電車シリーズは以上です。

私は「どんな場所であっても、その場所で表現できる工夫をすることが一番大事なポイントではないか。これがネーチュアの表現の根本的に大事なことはないか」と思います。

②「横浜」



③ これは冬の青森の津軽の海です。ND100を付けて10秒～15秒以上で撮った写真です。波が雲のように「フワッ」という表現になる。これをモノクロで表現しても良いだろうと思います。逆に嵐で波が凄い。

③「津軽」



④これは日光の湯ノ湖です。冬の荒天で波が凄く高い状況でした。こういう時に波を撮らないで静かな水辺を撮ろうといってもナンセンスです。波が高い時は波を表現しようという気持ちにならないといけないと思います。そして、動くものを撮る時は動かない物を一つ入れる事をおすすめします。.

④「日光」



◇撮りづらい時こそ作品作りのチャンス

このあいだ、青森県本部に行った時に、撮影の勉強会で、奥入瀬などを回りました。もの凄い豪雨。雨の時は「嬉しいな」と微笑むのは私で、私は撮影会の時は「雨男だよ」と言います。雨の方が表現力豊かな物が撮れる。撮りづらい時にこそ「作品を作るチャンスである」ということを訴えたいです。

◇失敗しない人は上手にならない。常に反省

⑤ これは雨です。これは雨垂れ。失敗したなと思ったのは、これを1/5秒で撮りました。1/30秒で撮れば雨粒が跳ねたのがもっときれいに撮れたと反省しています。常に反省です。次につなげる為には失敗が大事なステップです。失敗しない人は上手にならない。失敗してそのままの人は、なお上手にならない。失敗したら何で失敗したのか、そこを研究する必要があります。そこで差が出てくる。失敗したことをそのまま終えない。一つ失敗したら十にして返してやろう。その位の気持が若さを保つ秘訣でしょうか。

⑤ 「蔦沼」



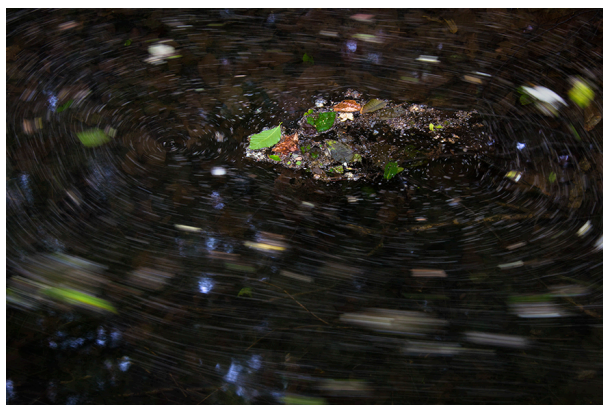
⑥ 青森で撮っている時に目の前に糸トンボがパッと飛んで来た。そこでこれはストロボを使いました。雨でどんよりとしている時にストレートで撮ってもそんなにメリハリは付かない。これはトンボが飛ぶなら飛んでも良い、縁が無かったと腹を決める。嬉しいことにストロボを着ける間トンボは待っていてくれました。2枚目を撮ろうとしたら飛んでしまった。ストロボを使っているから、糸トンボがはっきりと表現できたと思います。

⑥ 「蔦沼」



⑦ これは「蔦沼 (つたぬま)」です。きれいな堀が流れていました。ここでゴミが枝につっかかり渦を巻いていました。雨で暗いのでNDも何も着けなくてもシャッタースピードは1秒になりました。NDを使い10秒でも撮りましたが趣きを損ねたと思いました。

⑦ 「奥入瀬」



◇ストロボの活用と効果

私が雨や曇りが何で好きかと言いますと、ストロボを使うのが簡単なのです。明るく強い光の時はストロボの効果も少ない。これは奥入瀬溪流です。⑧これは何もしないで絞り優先オートで撮った写真。この露出をマニュアルに置き換える。そうするとストロボにスイッチを入れても露出は変わりません。

⑧奥入瀬溪流



⑨ それでストロボを照射したのがこれです。どちらが良いかと言っても絶対こちらが良いよとは言えませんが、ストロボを使った光を感じる効果はありました。

夕方とか曇りにストロボの効果を考えて撮りに行くのが好きです。ある意味では自分のオリジナルな表現ができるからです。光がある時には光を利用して陰を撮れば良いし、無い時にはストロボで自分の表現力をつけていけば良いと思います。

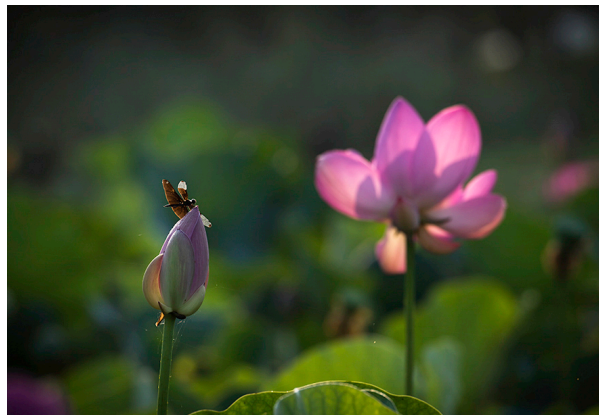
⑨奥入瀬溪流



◇多重撮影の表現

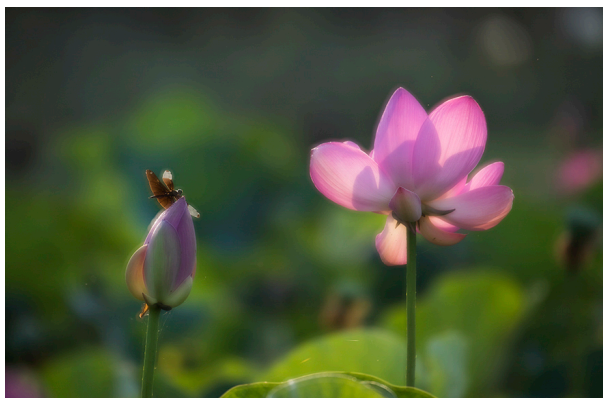
⑩次は蓮の花です。蝶トンボにはピントがきていますが、花にはきていない。当然トンボにピントを合わせたので当たり前です。開放で撮っています。

⑩「古代蓮」



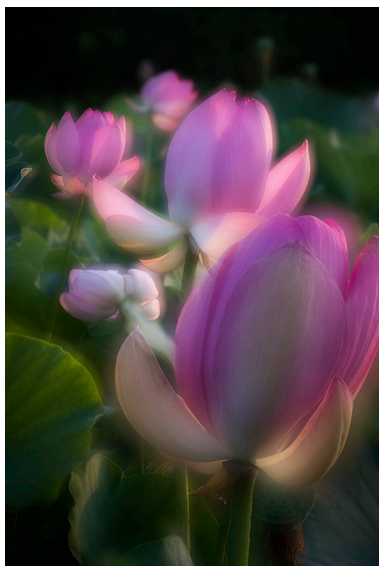
⑪ 次に撮ったのはこちらです。皆さんから見ると同じようにしか見えないと思いますが、トンボに1回、花に1回ピントを合わせ2回の多重で撮っています。そうすると柔らかい中にもピントがキチッと撮れる。これが多重の良い所です。

⑪ 「古代蓮」



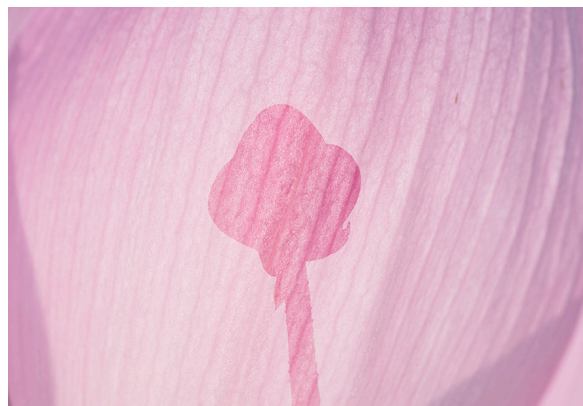
⑫ これは「蓮の蕾」ですが3重の多重です。3回のピントを合わせてカメラが合成してくれる。デジタルカメラはニコンで言えば「自動ゲイン」で割り振って調整してくれる。ストレートな表現とは違う表現がそこにあります。これはフォトアサヒに書いてある内容です。

⑫ 「古代蓮」



⑬ 次は、多重ですが物の多重というよりは光の多重です。1回目広く撮ります。2回目は蕾を空に向けて逆光で撮る。空の部分は露出を考えなければいけないが、空が白くなるから周りを白くする。蕾の部分は陰なので最初に撮った露出がそのまま残る。こういうやり方があります。

⑬ 「古代蓮」



⑭本に書いてありますが、山があつてシルエットになっている。一回撮って、次にカメラを上下逆にして撮ると宙に浮いた山が撮れる。そういう多重の方法もあります。

⑭「丸山古墳」



⑮これはただの蜘蛛です。蜘蛛を撮るのだけれども庭で撮った蜘蛛なのか蓮田に行って撮った蜘蛛なのか分からないような撮り方より、どういう所に住んでいる蜘蛛なのかが分かる表現の幅を考えた方が良いのではないかと思います。

⑮「古代蓮」



⑯これはこの間の蓮田で撮った5回の多重です。光が蜘蛛に当たっていました。こういう多重を行う時は自由雲台では高さが揃わない。三方雲台は水平を保ったまま左から右へ移動できるわけです。ですから頭が平にそろいました。露出は5回の自動ゲインで撮れました。

⑯「古代蓮BW」



◇どこにでも通用するという撮り方はない

最初にも申し上げましたが、「この場面では私はこう撮りました」それを参考にして頂ければということでお話をしています。それがどこにでも通用するという様な話は無い訳で、「この場合にはこう撮りました。」ということ聞いて頂ければと思います。

⑰ これは私がかなり前から撮ってみたいなと思っていた場所で、日光の「明智平」です。皆さんも行った事があると思います。明智平らのトンネルをくぐる少し手前の左側で撮影しました。ここで下のイロハ坂を通過する車の来るタイミングを考え、何秒で車が通過するかよく観察して撮りました。

⑰ 「日光BW」



◇その時に撮れるものを撮る

⑱ は6月10日の柵池高原。今年は雪がとて多くて、木道が雪に閉ざされている状態で水芭蕉が本来ならば咲いているのですが咲いていませんでした。ほんの小さい芽が出ているのがせいぜいでした。ストロボを使用して撮りました。その時に撮れる物を撮る、それが一番良いと思います。どこでも撮らないと撮れない。

⑱ 「柵池」



⑲ 例えばこれはサービスエリアです。お盆休みで車が凄く多い時です。サービスエリアの駐車場も一杯で車が多く通ります、その車の光跡を撮ったのがこれです。「撮りたいな」と思った時に撮らないと悔いが残る。私はパーキングで結構撮っていますが、夜桜なども照明がされていて撮りやすいです。桜と車の光跡を考えると面白く撮れる所は一杯あると思います。

⑲ 「上河内SW」



⑳ これは静岡の「工場夜景と富士山」の撮影会を全日写連の本部で行いました。その時の写真です。係留されている漁船が揺れています。それを露光の間にストロボを焚く。この様にストロボの効果を考えて撮ると動いている物でも止めて表現できます。

⑳ 「静岡」



◇ストロボの設定方法と使い方

㉑ 次にこれは南越谷の阿波踊りです。私の設定は、マニュアルでシャッター速度は1/30秒にセットし、全て1/30秒で撮りました。ISO感度は400に固定し、変える所は、離れている所を撮る場合にはストロボが弱くなるので5.6で撮る。近づいてくると8、かなり近い時は11と調整すればストロボもそんなに失敗なく撮れます。マニュアルということは、背景はそのまま変わらない。絞りを8にしたり5.6にしたりすると背景が良く写ったり少し暗くなったりすることがある。これは5.6ですが看板の光とかが入りますから大丈夫だろうと思います。

㉑ 「南越谷」



◇シャッターチャンスのとらえ方

㉒ それから、先日、彩東支部の皆さんと川瀬祭りに行って来ました。祭りのクライマックスは、川の中を神輿が進むシーンです。私は、荒川にかかる橋を入れることによってスケール感を表現したいと思い撮ったのがこの縦の写真です。

㉒ 「川瀬祭り」



⑳私は、山車が進む道を見ていて「これは絶対撮りたい」と思ったシーンがありました。縁側に家族が並んでいる。これは珍しいと思いました。一番問題なのは山車の行列の前にカメラマンが一杯いる。私は何気ない顔をして待っていました。今だ！というタイミングの時にパット行ってパットと撮ったのがこれです。

㉓「川瀬祭り」



◇その場面で考える。そして失敗を恐れない。

私が申し上げたいのは「その場面場面で考える」ということです。「どう撮ることが一番良い表現か」ということを考える余裕、是非そこを考えて頂ければそれが技になって行く。それから失敗を恐れずにやって下さい。失敗は成功の元です。失敗することが次へのステップです。先ほど言ったように反省しない人は一番駄目だと思います。

注釈 この文章は、講話を一部編集したものです。赤○の数字は写真の番号です。